

寺報

No.602

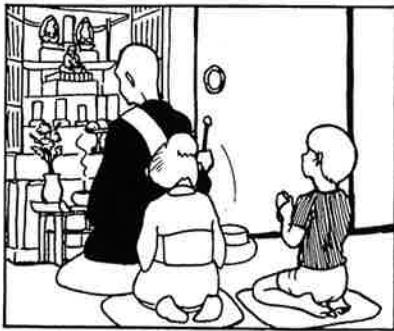
平成29年10月

蓮華寺
發行

御聖訓

さどの国と申し、此の国と申し
度々の御志ありて、たゆむけし
きはみへさせ給はねば、御本尊は
わたしまいらせ
て候なり。

『新尼御前御返事』



(解説)

『新尼御前は本当に法華経への信仰心の勝れた方です。』

私（日蓮大聖人）が佐渡に流罪された時も、またこの身延の山へ入ってから、度々の厚い志しを寄せられ、信仰心がゆるむ様子は、ひとつも見られませんでした。

そこで、ここに御本尊を授与したいと思います。皆様の中には、仏壇はあるけれども、位牌だけを祀り御本尊がない家庭もあります。

我々は日蓮宗の檀信徒です。

大曼荼羅御本尊は必ずお祀りしなければなりません。です。

このお言葉から、御本尊は当時の人は日蓮大聖人からその信仰心の強さが認められて、初めて授与された誠に有り難いものなのです。

ですから、御本尊をお祀りするという事は、大聖人のみ教えを實行すると誓ったのと同じ事なのです。皆様も、御本尊の前では心を込め法華経・お題目を唱え、より強い信仰心を養っていきましょう。

御会式

十月二十二日(日)

午後一時より

※法要終了後、ご法話あり



今回は津軽三味線を交えたお話となります。

* 本年は、第七百三十六回目のご法事に当ります。

檀信徒の皆様は、必ずご参拝、ご焼香し、日蓮大聖人様へ御報恩の誠を尽しましょう。

* お経は、『如来神力品第二十一』の中頃「爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げたまわく」から読みますので、皆様もご一緒にお唱えしましょう。

* 先祖・仏様のご供養(諷誦文)と日蓮大聖人御報恩謝徳【各千円・お札付】をお受け致します。

* 法要終了後の『ご法話』も必ずご聴聞下さい。

「御会式」とは？

弘安五年(一二八三)十月十三日の午前八時、数々の迫害にもめげず、我々にお題目の信仰を教えられた日蓮大聖人は、東京の池上の地で六十一歳のご生涯をもって御入滅されました。

翌十四日はご葬儀、十五日には池上で荼毘(火葬)に付され、日蓮大聖人の「いづくにて死に候とも、墓をば身延沢にせさせ候べく候」のご遺命により、お骨は百ヶ日忌の日に身延山へ納められました。

この時以来、毎年日蓮大聖人のご命日忌には、弟子や信者達が法要を営み、ご報恩の誠を捧げてきました。そのご命日忌に行われます法要儀式を『御会式』と呼んでいます。

本来は、仏教各宗派の読経・説法の集まりをいう『法会(ほうかい)の儀式』の略称で、敬語の「御(お)」を付け『御会式』としたのであります。

つまり、昔は特に日蓮宗に限って用いられた言葉ではなかったのですが、日蓮大聖人の数々の偉業、偉大さまたご人徳により、大聖人の『御会式』の法要だけが有名になり、他の宗派のものは影をひそめてしまい、

「お会式といえば日蓮大聖人の御命日である」といわれるまでになったのです。

東京池上本門寺の『御会式』は、全国より沢山の信者が集まり、前日のお逮夜には万灯をかつぎ、フエで調子を取りカネ・太鼓を叩く万灯行列が出て、交通規制がかかる程の盛況ぶりとなります。

ですから他宗の方などは、この余りの賑やかさに、これが日蓮大聖人のご法事とは知らないで、逆にお祝ごとだと思っている人達も沢山います。

皆様が法事をする時は、しめやかにごそかにお勤めを行なうものですが、我々は日蓮大聖人の死を悲しむのではなく、有り難くもお題目・法華経を教えて下さった事に感謝し、ご報恩の誠を尽くしていく事が大事なのです。

さて、よく檀家の方で「蓮華寺の十夜はいつですか」と尋ねる方がいますが、これは大変な誤りです。

『十夜』とは正式に十夜法要といい、十月の六日より十五日迄の十夜に渡り、浄土宗や天台宗のお寺で行われます念仏会の事をいうのです。

ですから、十夜は他宗の信徒が一生懸命『念仏』を唱え、阿弥陀様をご供養する日なのです。

つまり、我々日蓮宗の『お会式』には一切関係がないものなのです。

多分、同じ十月でしかも日が近い処から、勘違いされて来たものなのでしょうが、我々日蓮宗の檀信徒は決して間違った呼び方をしないようにお願い致します。

そして、『お会式』には必ず法要に参列し、自らの報恩感謝の気持ちをも、日蓮大聖人に現わそうではありませんか。

日蓮大聖人の唱えられた『南無妙法蓮華経』のお題目によつて、我々もまたご先祖様も救われているという事を忘れてはいけません。

◎日蓮大聖人

聖語カレンダー 《限定販売》

日蓮宗新聞社発行で、縦58横38センチです。

一ヶ月で一枚、上半分に大聖人のお言葉とその解説、下半分がカレンダーで、干支・二十八宿・旧暦が書かれ、更に宗門聖日(日蓮宗で重要な日)も出ております。

一部・・・五〇〇円
◎平成三十年代「暦」
一部・・・一五〇円

竜ノ口御法難会

十月十三日(金)

午後一時より

於：大本堂



*参拝者には全員、オハギをご供養致します。

同じアンコロモチですが、秋はオハギ(お萩)・春はボタモチ(牡丹餅)といわれています。

⑨『竜ノ口御法難会』は「十三日講」のお勤めの中で執り行います。

日蓮大聖人は法華經の信仰を弘めていく為に、身に降り掛かる激しい御法難を、何度も乗り越えていきました。

「大難は四ヶ度、小難は数知れず、我が身を惜しまずただ無上道(法華經)を惜しむ」というご信念のもと布教に精進なされました。

大聖人はこれ等のご法難を耐え忍ぶ事により、私達に法華經への命懸けの信仰を實踐する事をお教えになられたのでした。

鎌倉幕府は文永八年(一二七一)九月十二日のこの日、大聖人を捕えましてひそかに刑場・竜ノ口へ引き連れ死刑にしようと企てました。

ところが、処刑の直前に突然「光り物」が飛びかうという奇跡が起こりまして、遂にその目的は果たされず、大聖人は改めて佐渡ヶ島へ流罪となりました。

この身命にも及ぶ大難にもひるむ事なく、大聖人は法華經によつて救われたという実証を踏まえまして、以前よりも増して法華經への強い信仰の道を説いていかれたのでした。

そういう意味からも、この『竜ノ口の御法難』は特に大聖人にとりまして重要な意味を持つのです。

『七五三』のお知らせ

当山では毎年『七五三』の祈禱を行っていますが、青森は十一月ですと雪の心配がありますので、十月から受付しています。

『七五三』は本来「数え年」で行うものですから、

◎七歳・平成二十三年生れの女兒

◎五歳・平成二十五年生れの男児

◎三歳・平成二十七年生れの女兒

となりますが、ご家庭の事情により「満年令」でも構いませんので、子供さんの幸せと発育を願いまして、日蓮宗のご祈禱をお受け下さい。

なお、子供さんには「鬼子母神木札」「千歳飴」「千支のキーホルダー」「記念写真」を差し上げますのでどうかお早めに、ご予約を戴きますようお願い致します。



『位牌壇』募集中!

★お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱え続けられていきますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡り護られています。

★仏様の御命日に当たる時に、旅行や諸用などで不在でも、ご予約戴ければ『位牌壇』の前に追膳をお上げしますし、またお経も唱えさせて戴きます。

★特に青森では冬期間、お墓参りが出来ませんので、『位牌壇』がありますと、常にお参りが出来ます。

★分割は三年間の内に、回数はご相談下さい。

『聖徒団会員』募集中!

毎月ついでに「盛運祈願会」の中で、住職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、御寶前のお花、新聞【聖徒タイムズ】・寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

『提灯』募集中!(限定一個)

境内にさげます『提灯』を募集します。

作成価格は八千円、年間の管理費は二千円となります。

檀信徒研修会のお知らせ

十月二十八日(土)

『聖典の読誦と唱題行』

担当・・・住職上人

*聖典の読誦(三十分)と唱題行(三十五分)

*お題目は七百回以上唱えられます。

時間：午後七時より

場所：小本堂【イスや安座にて結構です】

持参品：聖典(事務所にて)・数珠・団扇太鼓

*月一度の修行ですので、どうか皆様もこの機会を逃さず、お経とお題目を心から唱えましょう。

☆靈断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『靈断』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。 ☎776-5840

【ご相談料は一件につき二、〇〇〇円です】

「俱生靈神符」のすすめ

皆様の中には、よく『俱生靈神符』(毎月のお守り)は毎月取り換えるのが面倒なので、一年間持てる『五段のお守り』や『カード型のご本尊』でよいと言う方がいますが、お守りにはそれぞれ目的というものがあるので。

『五段のお守り』は我々には計り知る事が出来ない五段(生霊・死霊・野狐・厄神・呪詛)の邪気から身を守るもので、また『カード型のご本尊』は『俱生靈神符』や『五段のお守り』の力を、より一層強く發揮する為のお守りとなっています。

そして、『俱生靈神符』は我々を交通事故を初め、世の中で起きる様々な事故や事件から身を守る為のお守りであり、その目的は全く違うのです。

どうか皆様もこの点をご理解戴き、『俱生靈神符』は決して身体から離さず、必ず毎月ついたちの『盛運祈願会』に参拝して交換するようにして下さい。



一体・・・百五十円

十月の行事

一 日(日) 盛運祈願会 午後一時より

・毎月のお守り【靈神符】の交換の日です。

・お勤めに参拝し、お経とお題目を唱えましょう。

・檀信徒の方は必ずお守りを持ちましょう。



四 日(水) 甲子【大黒様の日】 朝のお勤め中

十三日(金) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より

・お経 (如来神力品第二十一(訓読・日本語読み))

・お経 (如来寿量品第十六(真読・漢字読み))

・皆様も日蓮大聖人様の御報恩を忘れずに参拝し、一緒にお経・お題目を唱えましょう。

十三日(金) 『竜ノ口御法難会』 午後一時より

二十二日(日) 『御会式』 午後一時より

二十八日(土) 檀信徒研修会 午後七時より

☆奉仕のお知らせ

十七日(火) 『御会式』花作り・・・午前九時より

・一般檀信徒の皆様・教宣部男女

④ 『御会式』の際、大本堂に飾る桜の花は、毎年教宣部と檀信徒の皆様が奉仕で作られています。

どなたでも参加出来ますので、日蓮大聖人様への御報恩の為、よろしくご協力をお願い致します。

二十日(金) 『御会式』の準備

・教宣部男女・・・午前九時より

*大本堂の幕、ノボリ、ちようちん、祭壇等の準備

二十二日(日) 『御会式』のお手伝い

・教宣部男女・・・午前十時より

二十三日(月) 『御会式』の後片付け

・教宣部男女・・・午前十時より

*大本堂の幕、ノボリ、ちようちん、祭壇等の後片付け

④ 『御会式』は大行事ですので、準備、後片付け等が大変です。

沢山の方々のご奉仕をよろしく願致します。

教宣部員以外の檀信徒の方も歓迎致します。

◎奉仕部長・山田兼補 ◎伝道部長・小野正春

◎教宣部長・杉淵昌三

お え しき 御 会 式

*法 要

十月二十二日(日)

午後一時より

※法要終了後に津軽三味線を交えたお説教があります

講師：日蓮宗靈断師会本部講師
茨城県笠間市・一心寺副住職

田代 貫光 上人



※檀信徒の皆様は、『御会式』法要には必ず参拝し、日蓮大聖人様へご報恩のご焼香致しましょう。

※日蓮大聖人様の御報恩謝徳と先祖・仏様のご供養【諷誦文】(お札付・千円)、お供物等をお受け致します。